

新・湯治による効果の把握 ～みんなの新・湯治プロジェクト～

環境省では、平成30年度から、全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクトを実施しています。本調査は、全国の温泉地全体での療養効果を把握し、今後の温泉地の新たなあり方を考えるものです。本調査への参加温泉地を随時募集しています。

どんなプロジェクト？

- 環境省が作成する統一フォーマット（調査票）を活用し、全国の温泉地において温泉利用者に記入を依頼し、回収・入力の上、環境省に集約。
- 全国のデータを取りまとめて公表（年度ごとの予定）。
- 令和元年度は、19の温泉地で実施（有効回答数：3,646人）。性別を問わず、一定の良好な変化があることを確認。
- 温泉地の観光協会や旅館組合の他、旅館・ホテル単独でも参加可能。



※調査票は両面1枚。質問の追加も可能。

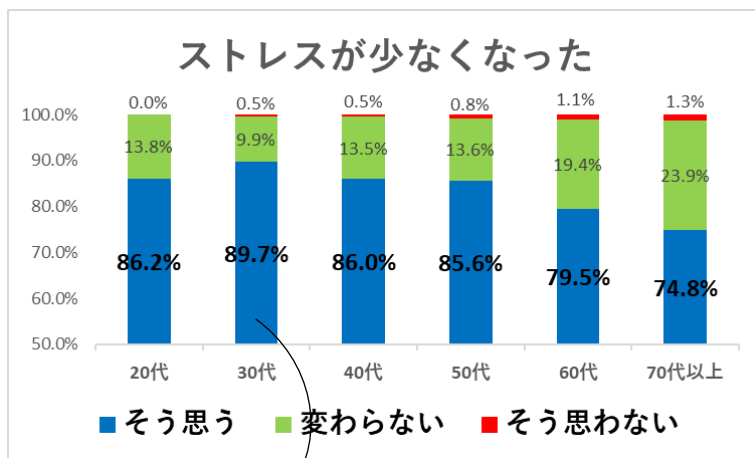
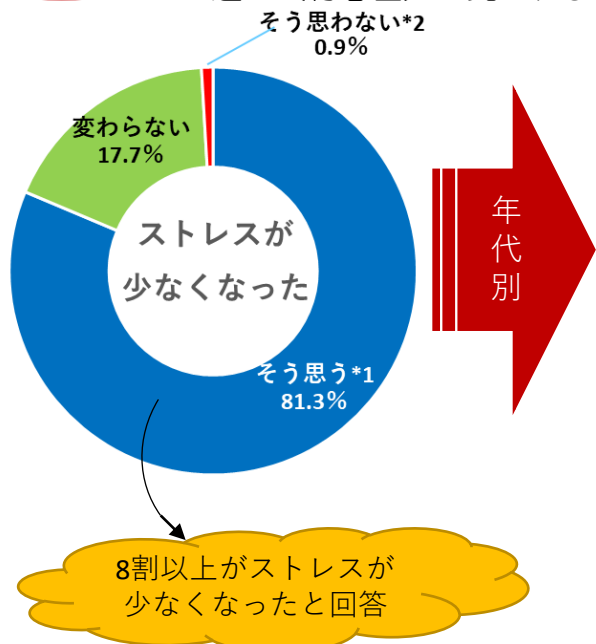
※今年度、携帯からWebでアンケート回答も可能です。（現在制作中。）登録方法は参画していただく温泉地の皆様に改めてご連絡いたします。

どんなことがわかったの？

■主な調査結果（令和元年度調査結果より）

結果①

温泉地滞在後は、心身に良い変化が認められただけでなく、年代別でその変化には違い（有意差）が見られました。

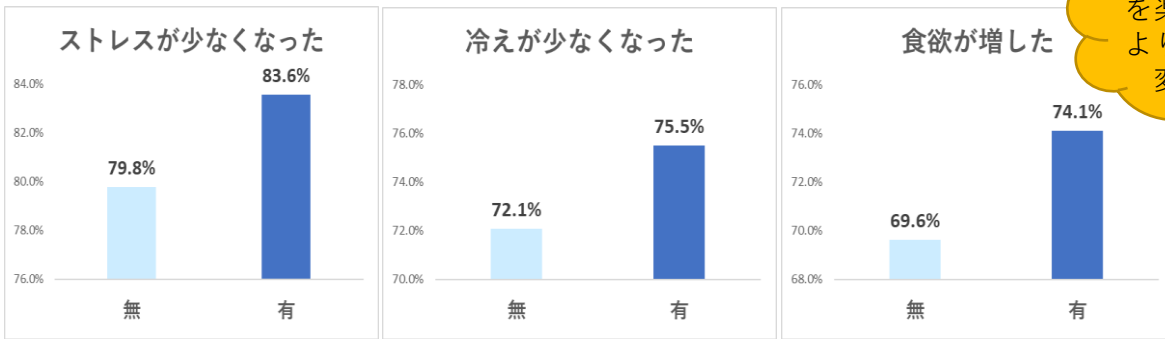


*1 「とてもそう思う」、「そう思う」及び「ややそう思う」の合計
*2 「全くそう思わない」、「そう思わない」及び「ややそう思わない」の合計

結果②

単に湯に浸かるだけではなく、温泉地で何らかのアクティビティを行うことが、心身へのより良い変化を促していました。

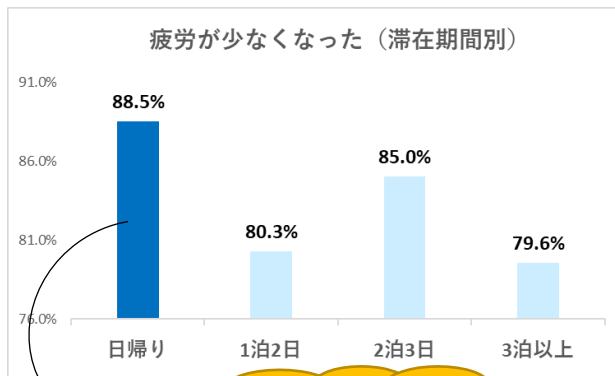
温泉入浴に加え、
アクティビティ
を楽しむことで
より良い心身の
変化が期待



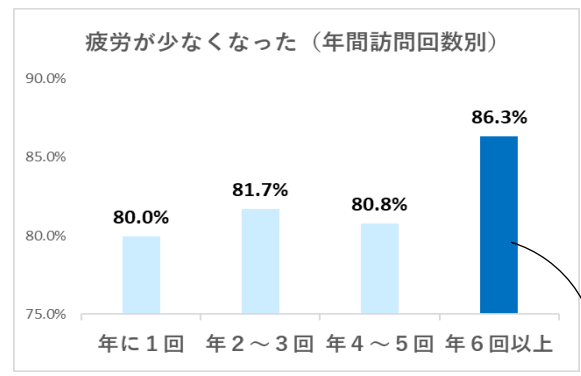
* 「とてもそう思う」、「そう思う」及び「ややそう思う」の合計数をアクティビティ利用の「有り」「無し」で比較

結果③

長期間の温泉地滞在ではなくても、年間を通して高頻度で温泉を訪れることで、心身への良い影響があると考えられました。



「日帰り」の改善
割合が最も高い



「年6回以上」の
改善割合が最も高い

* 「とてもそう思う」、「そう思う」及び「ややそう思う」の合計

令和元年度は以下の温泉地が参加いたしました。ご協力ありがとうございました。（記載は受付順）

No	申請施設・団体名	調査地域	No	申請施設・団体名	調査地域
1	日本大学スポーツ科学部	鹿教湯温泉組合	11	ニセコ町	昆布温泉 甘露の森・柵の庄・ワンニセコ・グランドホテル・五色温泉旅館
2	三重県保健環境研究所	三重県内	12	筑後川温泉旅館組合	筑後川温泉地内
3	北海道温泉研究会	開拓ふくろふ乃湯	13	四条啜学園大学 リハビリテーション学部	白浜樺の郷、白浜日置の郷 道の駅「樺はなの湯」
4	高湯温泉観光協会	高湯温泉宿泊施設 高湯温泉共同浴場	14	東海大学海洋学部	畑毛温泉（函南町観光協会）
5	俵山温泉合名会社	俵山温泉内入浴施設	15	新温泉町	浜坂温泉・七釜温泉・湯村温泉
6	酸ヶ湯温泉株式会社	酸ヶ湯温泉	16	大分県福祉保健部 健康づくり支援課	別府市・竹田市・豊後高田市
7	鳥取県三朝町役場	三朝温泉	17	湯田温泉配給協同組合	湯田温泉
8	五頭温泉郷旅館協同組合	五頭温泉郷地内	18	株式会社JTBガイアレック	草津温泉・熱海温泉・四万温泉・鳴子温泉
9	東海大学海洋学部	豊後高田市 くにさき六郷温泉地内	19	山形県温泉協会	蔵王温泉・小野川温泉・天童温泉
10	静岡県温泉協会	静岡県川根温泉ふれあいの泉			

実施主体 環境省自然環境局
自然環境整備課温泉地保護利用推進室
(調査票・実施マニュアル等はこちら)
https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa_project.html

みんなの新・湯治 🔍 で検索

本プロジェクトについてのお問い合わせ

(2020年度プロジェクト事務局)
一般財団法人 日本健康開発財団
メールアドレス: toji@jph-ri.or.jp
TEL:03-5290-1621 FAX:03-5290-1622
住所:東京都中央区日本橋3-1-4画廊ビル8階

事務局が集計を
サポートします。
ご参加のお問
い合わせはこ
ちらまで!